

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度第1回高松市国際交流推進協議会
開催日時	令和元年6月12日(水)午前10時～11時
開催場所	高松市役所3階 33会議室
議 題	(1) 平成30年度国際交流推進事業実施状況について (2) 令和元年度国際交流推進事業について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席者	<委員>池下委員、稲井委員、岡田委員、塩田委員、太良尾委員、時岡委員、 徳田委員、平田委員、舟木委員 <オブザーバー> (公財) 高松市国際交流協会常務理事 <市>創造都市推進局参事、文化・観光・スポーツ部長、観光交流課都市交流室(事務局)
傍聴者	0人 (定員 5名程度)
担当課及び連絡先	観光交流課 都市交流室 (Tel839-2197)

審議経過及び審議結果

議題(1)について

・事務局の説明に対し、下記の意見があった。

○多言語メルマガを廃止したことで混乱はなかったか。

●ホームページが多言語対応となったこともあり、今のところ、多言語メルマガを廃止したことによる御意見はいただけてはいない。

○高松市の在住外国人は何人か。また、何カ国の人がいるのか。

●今年の4月30日時点で、在住外国人は4,624人である。昨年の同時期は、4,150人だったので約470人増えている。ここ5年間で約25%増えており、増え幅が大きくなってきている。国の数は約70カ国で、人口の多い国は、中国、ベトナムである。

○都市交流室は国際交流を担当しているが、多文化共生も担当しているのか。今後、多文化共生について、高松市はどのような方向性で行くのか。

●現在、在住外国人は人口の約1%であるため、様子を見つつ、2%の水準に達したら専門窓口の設置等を検討するという状況である。

○最近、商店街でも外国人の方を多く見かける。高松市の国際化が進む中で、受入をする企業、学校、自治体がどのように連携し、これから基盤づくりをしていくのか。また、これから人口が減少し外国人が増えていく中で、多文化共生についてどうしていくのか。高松市だけではなく、他の自治体も同じ悩みをかかえており、その中で高松市がモデルになるのではないかと思う。

○日常生活の面と就労の面は分けて考えるべきなのかもしれないが、留学生にとってみると一連の生活の中での出来事である。留学生については、受入機関が担当すべき部分と自治体が担う部分、その先は企業にお願いする部分があって、今のところ、その連携がうまく取れていないのが実情である。香川県と高松市が中心となって、企業などの各種団体にも声をかけて、これから真剣に考えていかなければいけない問題だと思う。今年度から就労関係の法律が変わり、先日とある留学生を多く受け入れている団体と話をしたが、どのようにすればいいのかととまどっていた。留学生の就職について対応があまりできていないところがあって、以前からこのような問題がいろんなところに出ていながら、残念ながらあまり対策に向けてのチーム作りができていない状況にあると思う。高松市だけに投げるという訳ではないが、香川県の中でもたくさんの方が高松市に住んでいるので、ぜひリーダーシップを取って検討いただきたいと思う。来週、30年以上続いている香川県留学生等国際連絡協議会という各種交流団体が参加する会があるが、同じようなこのような議題を出したいと思っている。大学も困っているし、企業側も留学生を取りたいのだけれども、うまくマッチングできないという悩みがあって、需要もあり供給もしたいと思っているけれども、うまくいかないところを共生の一つの重要なポイントとして考えていきたい。高松に住む留学生は、住みよいのでここでずっと暮らしたいと思っていて、就職先を見つけないと思っている方が本当に多い。そういう方に、対応できるような仕組み作りが必要かと思う。

○せっかくこれだけ留学生がいるにも関わらず、留学生が活用されていない。留学生が市民と直接触れ合う場がアルバイト先ぐらいしかない。ボランティアに参加することで、仲間も増えるし、意識も変わるし、彼ら自身も成長していける。アルバイト以外で、彼らが自分たちが仲間として受け入れられている、自分たちの存在価値や自分たちの能力が生かせる場所があまりない。留学生に声をかけていただいて、留学生たちが高校生や市民と直接触れ合える場を作っていただければ、これが後々、香川県での就職といったことにもつながっていくと思う。

○いろいろ高松市が企画されているイベントがあると思うが、国際というのを特別扱いする必要は全くなくて、普通にあるイベントの中に知らない間に国際的なものも入り込んでいるというような感覚で取り上げていただけたほうがいいと思う。国際だから特別で、留学生を集めるのが大変というということは、今はもうなくなっていると思うので、ぜひ市の感覚もそういう方向に修正いただければと思うし、遠慮なく我々のほうにお声掛けいただければ喜んで参加すると思う。観光についても、留学生の視点で香川県や高松市がどう見えるのかということも大変大事だと思う。

議題(2)について

事務局の説明に対し、下記の意見があった。

○2年ぐらい前にカンボジアの留学生を受入れた。その留学生が日本での就職について困っているようで相談を受けた。今も困っている人がたくさんいると思うので、早急に何らかの形で、困ったときに相談できる場所があったらいいと思う。

●かがわ外国人相談支援センターが、今年4月からアイパル香川に開設されている。

○高松市は、かがわ外国人相談支援センターのちらしをどこに設置しているのか。

●都市交流室の窓口に設置している。

○1階には設置しているか。1階に設置していない自治体が多いので、高松市も1階の市民が来る窓口に設置したほうが良いのではないかと思います。

●確認して対応する。

○非常勤嘱託職員の配置について、以前は国際交流員がいたが、現在はいないのか。

●現在はいない。

○来年南昌市との友好都市提携30周年を迎えると思うが、今年度何か準備をするのか。また、昨年10月に高松市日中友好協会と大連市中日友好協会が交流協定を締結しており、相互交流で今年の9月に大連市から30名が来高予定となっているため、協力をお願いしたい。

●南昌市との30周年については、これから庁内での意思決定に取り掛かるところである。もちろん高松市日中友好協会と高松市国際交流協会にも御協力いただきながら進めていきたいと思うので、その際はお願いしたい。大連市中日友好協会来高の件についても、できることがあれば協力する。

○エルバートンから今年も7月11日から24日まで高校生6名と引率者1名の来日が予定されている。また、7月25日には牟礼の高校生6名と引率者1名がエルバートンに2週間の滞在を予定している。今年は、姉妹都市からの交流事業を含めると34回目になる。7月13日には牟礼の図書館ホールにて歓迎会の予定もあるので、もしお時間あれば御参加いただきたいと思う。

※ ○委員 ●事務局